



第10章

デリスキング時代の日中ビジネス

——チャンスとリスクの見極めが大切に

名古屋外国語大学 教授、日立総合計画研究所 リサーチフェロー

真家 陽一

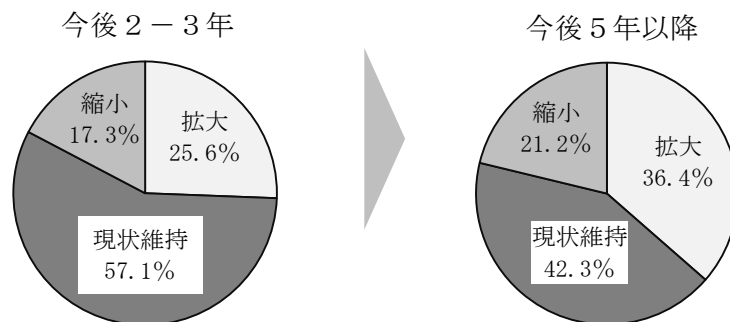
【ポイント】

- 日本企業にとって、貿易、直接投資および海外拠点数の面から見て、中国との経済的なデカップリングは現実的には極めて困難といえるが、中国リスクの高まりを認識し、経済安全保障を中心にリスクへの取り組みを進めている。しかし、その対応においては問題点や課題も少なくないのが実情となっている。
- 欧米企業はデリスキングに対応すべく、生産・調達や投資を中国国外に移転する動きが一部に見られるが、多くの企業は中国ビジネスを継続していく姿勢を示しており、特に欧州企業は地産地消に向けたサプライチェーンを再構築するなど、中国市場をしたたかに開拓しようとする意向もうかがわれる。
- 米中の戦略的競争下におけるデリスキングを踏まえたサプライチェーン戦略としては、①国内回帰、②地産地消、③選択と分散という3つの方向性が考えられる。日本にとって中国との初の経済連携協定である東アジアの地域的な包括的経済連携（RCEP）協定を活用していくことも検討すべきであろう。



自社グループの売上高に占める中国の割合の見通し

アンケート調査の結果から、日本企業の中国ビジネスは中長期的には拡大する企業と縮小する企業に事業展開が二極化する可能性もうかがわれる。



資料：JETRO「2023年度海外進出日系企業実態調査（アジア・オセアニア編）」
（2023年11月）をもとに作成